

I can't put up with nuclear fuel circle.

# だまっちゃおられん!

核燃・だまっちゃおられん津軽の会

会報NO. 20

2011年12月1日発行

## 小出裕章講演会

会場満席 500人参加



△ 講演する小出裕章氏

11月12日(土)、弘前市岩木文化センターあそべる大ホールにて、小出裕章講演会が行われ、会場満席の500人が集まりました。

当会代表の宮永崇史さんが主催の挨拶をした後、小出先生が原発のしくみから福島原発の事故、原発のコスト等、原発に関わる多岐にわたる問題を、ほぼ2時間お話ししました。40枚を超える質問用紙が出され、宮永代表が整理した質問に小出先生が答える形で質疑応答が行われました。



△ 聞き入る聴衆



↑DVD2枚組¥500+送料で頒布しています

運営委員 須藤 宏

「大事故からの出発」と題する小出裕章先生の講演会がようやく実現しました。11月12日、弘前市岩木文化センターの会場は500人の聴衆でほぼ満席になりました。講演会の様子はDVDになり、YouTube、Facebookにもアップされましたので、まずはそちらを視聴していただくことにしましょう。

小出講演会の開催を決めたのは4月でした。福島原発事故以来、大小のメディアから引っ張りだこの小出先生は多忙をきわめ、10月まで日程はあいていませんでした。メールでの打ち合わせに小出先生はすぐにご返事をくださいましたが、先生からの返信メールが2ヶ月ほど途絶えたことがありました。ようやく届いたメールは、返事の遅れを詫びながらも驚くべきものでした。「今現在、未読メールが5700通を超え、郵便物も開封すらできないまま山になっています」。

小出先生のお話は淡々とした話し振りながらも、聴く者をぐいぐいと引き込み2時間の長さを感じさせない内容です。

小出先生は、「なによりも放射能から子どもを守りたい」と強調しました。そのためには、食品の放射能汚染を徹底的に調べ、汚染の度合いごとに「60禁」「50禁」…「20禁」「10禁」と仕分けし、「子どもには汚染の低いものを食べさせ、汚染の高いものは大人が食べる」ことを提唱されました。

これには批判があります。“子どもと大人は同じものを食べるから分けることは不可能だ”“「10禁」の食品は高騰し、「60禁」は暴落するのではないか”。

小出先生も承知のうえで発言しています。

小出先生は原子力の専門家の立場から、今回の原発事故でだれしも放射能汚染を避けることはできない、ならば年齢による放射能の感受性の違いから、子どもの内部被曝を避けることを最優先にしながらも、一次産業も守らなければならない、そのために必要なことはなにか、その考え方を提唱されたと受け止めました。これを具体化するのには行政の仕事ではないかと思えます。現に、当初の暫定基準値500ベクレルを政府は見直し、子どもの基準値作成にとりかかりました。

また、“原発を廃炉にしたなら地元の雇用が失われるのではないか”。こういう質問もありました。小出先生は「原発の廃炉には30年もかかる。雇用はある」と答えられましたが、やはり雇用、経済の問題は小出先生の専門外です。雇用拡大を錦の御旗に、いろいろな企業の誘致がなされ、土壌・河川の汚染、自然・景観の破壊、多額の債務を残して撤退した失敗例も全国に数かぎりなくあります。その責任は問われるとしても、原子力の専門家に、原発廃炉後の雇用問題にまで回答を求めることは酷な気がします。

全国に“小出ファン”がいるようです。批判を覚悟でいうなら、小出先生は原子力の専門家です。研究者の立場から原子力発電の廃止を主張されるにいたった、その論旨を学ぶべきであって、専門外のことにまで小出先生に判断を求めるべきではないと思えます。

小出先生がいちばん言いたかったことは、以下のことだったと思えます。

原子力発電所の仕事は、電気をつくる仕事が3分の1で、3分の2は海を温めることであり、人類が制御できない核分裂生成物（死の灰）を作り出すことである。したがって、原発は地球温暖化対策の切り札にはなりえないだけでなく地球温暖化を促進し、始末に負えない死の灰を作り出す。

原発の燃料となるウランは石炭、石油、天然ガスなどよりは、はるかに埋蔵量が少ない。資源としてのウランの量が貧弱なために考えだされた、ウランからプルトニウムに変えて無限のエネルギーを生み出すと言われる高速増殖炉の計画は世界の各国が断念している。日本では計画を立て直すたびに10年経つと20年後に夢が遠ざかり、すでに破綻している。ウランとプルトニウムを燃やすプルサーマルは危険きわまりない。

六ヶ所村の核燃料再処理施設は経済的にも非効率きわまりない。使用済み核燃料の再処理費用は1トンあたり約4億円もかかり、英仏へ処理を委託する場合の2倍もする。

こんなに危険で将来性も経済性もない原発・核燃サイクルだが、廃止したら電力は足りなくなるのではないか、こんな素朴な疑問にも明快な回答が用意されました。「発電設備容量と最大需要電力の推移」というグラフを示し、電力需要が最大のときでも原発なしで、水力、火力、自家発電だけで電力供給は十二分に間に合うというのです。自家発電には水力、火力、再生可能自然エネルギーが含まれ、発電設備容量全体の約3分の1を占めています。

原発がなくても十分電力は間に合う。原発依存の軸足を再生可能エネルギーに移せば、さらに、エネルギーはエコになる。このことが納得できれば、よほど原発マネーにまみれていないかぎり、こんな危険な原発はやめようとなるのではないのでしょうか。

## 感想文より

### 30代女性（弘前市）

非常にわかりやすい説明でとてもためになりました。私も2歳の子供がいますので、今後の内部被ばくが非常に心配で、食材にも気をつけています。しかし、汚染が広範囲であり、北海道、青森県産の食材だけで生活できないため、心配しながらも仕方なく食べているのが現状です。国はまやかしばかりであてにならないので、自分で情報を収集し、自分の子どもは自分で守るしかないと感じました。

### 50代女性（弘前市）

とてもわかりやすくインパクトのある講演でした。私も署名等できることをしたいと思いました。

### 60代男性（弘前市）

今回の講演の準備、いろいろとご苦労様でした。あやふやだった原子力についての自分の知識が改められ、有意義でした。でも、電力会社や政府を非難・愚弄しつつ、聴衆の心に怒りと恐怖心をかき立てていく小出さんの手法は、新しい時代にふさわしくないように思いました。原発に関わる人々を責め立てたからといって、反対運動が力を増していくというものでもありません。むしろ、相手は非難されることで強くなっていくのですね。「北風と太陽」の太陽のような運動を期待したいものです。

### 70代女性

講演を聞いて変わりました。東海村も六ヶ所も見学しましたが、説明は聞きましたが、あれは何だったのか？

### 60代女性

原発は人間を破滅させるものだということを再認識した。

### 20代女性（五所川原市）

福島の人々、被曝だけでなく生活すること自体が困難となっている人達を、国民全員で助けなければいけないと感じました。どうすればよいのだろうか、考えてしまいます。うーん。

### 40代女性

今までの生活を変えず、都合のいいことだけを考える人間。その愚かさを悟っている小出さんの言葉は重かった。目先の経済性・危険性をしっかり認識すること、自分の生活を見直すことが必要だと思う。

### 50代男性（東北町）

私たち国民が、いかに政府や電力会社やマスコミにだまされているかよく分かりました。大変わかりやすいお話、説明でした。ありがとうございました。

### 40代男性（弘前市）

東電と国を国際法で裁いてもらうことは出来ないのでしょうか？（人権無視・海の汚染）まだ見ぬ未来の世代のために世代を超えた責任を果たしていきたいと思います。小出先生のように市民の立場に立つ科学者の存在はとても大切だと感じました。

### 60代女性（十和田市）

小出先生の講演、以前から聞きたいと願っていました。はぎれのいいお話に大変大きな勇気と、また原発を本当に止める早道が求めていくこと、このことを、少しずつでは間に合わない点、たくさんありますが、少しでも出来ること、そして学習も積み上げていきたいです。故郷を日本をなくすることのないように、本当に、政府、電力のおろかさにあきれてしまいます。

他にも多数の方から感想が寄せられました。

# さよ～なら～ 核燃・原発



## チャリンコ *gogo* キャラバン



△ 蓬莱橋に集合したチャリンコキャラバン隊

10月2日、雨天の中第3回チャリンコキャラバン&核燃ゲーム大会を行いました。朝、9時30分弘前市中土手蓬莱橋広場に集結したチャリンコ集団は、出発式を行った後、宣伝カーの先導で弘前市内を練りチャリし、さくら野デパート前で街宣しました。年金者組合の遠足とかちあってしまった他、各団体の催し等とも重なり、今年のチャリキャラの出場者は少なめで、過去3度実施してそのうち2回も雨に祟られているということでは、開催時期の見直しも含め、これなら出てみたい!という自転車宣伝企画を、知恵を集めて練りましょう。

チャリンコ終了後、バーベキューを食べてゲーム大会へ突入。バーベキューは、この世のものとも思えないほど大きくて重い鉄板がなかなか熱くならず、急遽、鉄板を外して熾火の上に直接アルミ皿を載せて調理することにしましたが、これが正解でおいしい焼き肉を食べられました。一時は、参加した若い女性たちが「肉食女子」じゃなくて「生肉食女子」になりそうだと爆笑しておりました。

心配されたバーベキューも無事クリア、ゲーム大会で盛り上がりました。大坪代表が、新作核燃ゲーム「大事故」を発表。このたびのゲームは、参加者がコミュニケーションし、力を合わせてクリアするとい



うコンセプトとなっており、協力・共同が何より大切な市民運動の神髄を学べる内容となっています。もうひとつ、20人以上でも遊べる核燃ゲーム「爆死」も公開。大爆笑のうちにゲーム終了となり、新チャンピオンが、古つぼに盛大なりボンをつけた優勝杯「おおつぼ」を授与されて、「これ、どうすればいいんですか?」と焦っていたのが印象的でした。

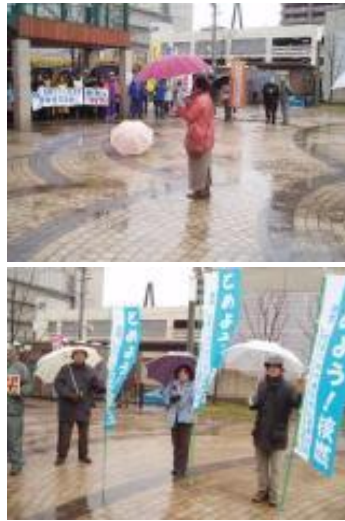


△ みうら事務局次長が起こした炭火

△ ゲームの説明をする大坪代表

## 核燃・原発ゼロをめざす 青森県民集会に参加してきました

11月19日(土)、青森市にて、核燃サイクル立地反対青森県連絡会主催の青森県民集会が行われました。あいにくの雨でした。せっかく持って行った旗もずぶ濡れ。参加者は150人余。安藤晴美さんが、だまっちゃおられんの会を代表して決意表明をしました。



## 第25回 原発問題住民運動全国連絡センター 全国総会に参加して

代表 安藤 晴美

11月27日、御茶ノ水にある全労連会館にて開かれた第25回原発問題住民運動全国連絡センターの全国総会・交流会に出席してきました。また、翌日の東京電力、国の原子力安全委員会、経済産業省原子力安全保安院への要請行動にも参加してきました。

今回の総会・交流集会は、福島第一原発事故後初めての総会となり、また、当センターが早くから津波による重大事故の危険性を明らかにし、対策を求めてきたにもかかわらず、安全対策を怠ってきたなどの経緯があり、大変歴史的な議論の場となりました。

全国労働総労連、小田川氏の来賓挨拶は、震災による組合への打撃や原発からの撤退を求める運動の広がりが語られました。

伊藤達也代表の報告は、現在の原発問題のおかれている位置を指し示す大変貴重なものでした。18都道府県36人の参加者があり、各地の運動の様子が10人から発言されました。私も、若い人たちと共に進める当会のユニークな活動振りを報告し、注目を浴びました。

福島の第一原発から15キロの警戒区域に自宅があり、避難生活をしている福島連絡会代表の早川氏は、事故前ののどかな農村風景と事故後の荒れた農地の写真を対比し、現場の深刻な状況を報告しました。更に、2日目の原子力安全保安院との交渉の場では、39年前に科学技術庁が作成した、女性の水着の写真の下に「エネルギーアレルギー」と書かれたポスターを掲げ、当時町中に貼られ「反対するものは火を恐れる野獣だ」と宣伝し、反対運動するものをさげすんだことを紹介し、「今、我々は、原発事故、放射能という野獣に打ちのめされている」と訴えたのが強く心に残りました。

## 「低線量」内部被曝に注目を

(その1)

運営委員 仁平 將

2011年3月11日からのフクシマの原発事故以来、「低線量」内部被曝が話題になることがしばしばである。「低線量」とカッコをつけたのは、原爆投下時の $\gamma$ 線と中性子線と比較すれば低線量だが、体内にとどまった微量放射性物質から照射される $\alpha$ 線と $\beta$ 線は、近隣の細胞にとって決して低線量ではないからだ。低線量領域のリスクを正当に評価する必要がある。外部被曝はおもに $\gamma$ 線による。 $\gamma$ 線は組織を貫く力は強いが、体内で遺伝子に傷をつける頻度は $\alpha$ 線・ $\beta$ 線に比較して格段に少ない。これに対して $\alpha$ 線は体内で飛び距離は短い、遺伝子に傷をつける力は非常に大きい。 $\beta$ 線は $\alpha$ 線に比べれば弱いものの、 $\gamma$ 線よりはるかに大きい力で遺伝子に傷をつける。 $\alpha$ 線はとびきりがみじかく、紙一枚通さないが、人間の体の中だと約40ミクロンメートル(ミクロンは1000分の1ミリ)飛んで、エネルギーを放出する。その時まわりの細胞に強い影響を与える。酸素を運ぶ赤血球や免疫を担うリンパ球の大きさが約8ミクロンメートルの微量世界での出来事である。たとえばウラン238の5ミクロンの粒子は17時間に1回の割合で崩壊して $\alpha$ 線をだす。一日に1回か二日に3回で年に500回にも達する。しかも、最近の分子生物学の成果ではバイスタンダー効果がわかっている。これは細胞核内の遺伝子に直接放射線がヒットしなくても、細胞質や近隣の細胞をヒットしたことによって起こる生物化学変化が遺伝し、染色体に影響し、さまざまな異常を起こすことを指す。内部被曝を $\gamma$ 線や $X$ 線による一時的な外部被曝から明確に区別するべきだと提唱したのがECRR(ヨーロッパ放射線リスク委員会)である。

## 詩

### 被 曝

山田大輔

今年の夏は、三十度を超した日が休むことなく続く。  
津軽のネプタが終わりになる、七日目にも猛暑が続いている。  
東日本大震災で亡くなった、  
何万人もの亡霊が行き先を求めて彷徨っているのでは。

この猛暑の中でも、世界中から集まった何万人もの人が集い、  
原水爆禁止世界大会が開かれている。

六十六年前の八月六日、午前八時十五分。  
夏雲の間から、広島に原子爆弾が投下された。  
一瞬の間に、何十万という人々が被爆した。  
放射線で焼けただれた、体の熱さと喉の渴きを癒すため、  
飛び込んだ人々の屍が、累々と重なり川を埋め尽くしたという。

あれから、六十六年後の今年の春、  
二〇一一年の三月十一日午後二時四十五分、  
まだ、春雪の舞う東北の地、福島県で。  
地震や津波により、原子力発電所に重大な事故が起きた。  
発電所の建屋内で、水素爆発がおき、数名の作業員が被爆したと、東京電力は発表した。

数十万の被爆と数名の被爆に、一人一人の命の重さに代わりがあるはずもなく。  
命あるすべての動植物も、放射線による被曝を受けたのである。

原子力発電所から、半径二十キロの範囲に住む人々は強制退去させられた。  
事故がおきて、数時間の内にだ。

住む人々に、避難の有無など聞くことも無く、無期限のバスは走り出した。  
それから四ヶ月、一時帰宅が許された人たちが自宅の玄関に立った。  
家は、四ヶ月前のままに家主の帰りを待っていた。

犬や猫などが迎えに出た。  
玄関脇に置き晒しの車も、作業小屋の農機具もそのままに在った。

一時帰宅の時間は短く、すべてを振り切つて帰りのバスに乗せられた。  
誰も語らないが、一時帰宅には、被爆を防ぐための防護服やマスクが嚴重にあった。  
被爆放射線量を減らすためには、時間も絶対的な要素である。

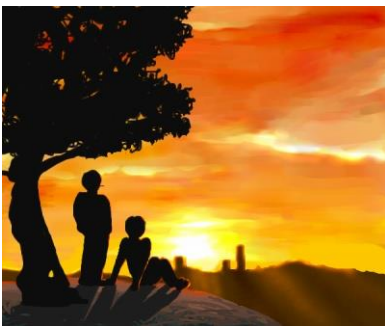
広島に被爆者が放射線被爆は危険であると、身を以つて六十六年も語り続けてきた。  
今また、原子力発電所の放射線被爆は、多くの語り手を生み出そうとしている。  
それでも、

被爆する、すべての命あるものを、生み続けなければならないのはなぜなのか。  
すべての人の胸に、わたしは問いたい。もう一度も二度も、なぜかと。

2011. 8. 6

#### 【山田大輔】

日本民主主義文学会会員  
日本民主主義文学会弘前支部長



山田大輔さんから詩の原稿をお預かりしてからなんと4ヶ月も過ぎてしまいました。会報の発行が遅れ、時宜をえた掲載にならなかったことをおわび申し上げます。(み)

# だまっちゃおられん活動報告

- 9月15日(木) 2011年度第5回運営委員会  
9月18日(日) 小出講演会宣伝のため法源寺・浄龍寺訪問(高松)  
9月20日(火) 小出先生より到着日程、書籍頒布値段・条件等メール入る  
9月22日(木) 小出講演会宣伝のため、つがる弘前農協、相馬農協、津軽みらい農協訪問(須藤、高松)
- 9月23日(金) 第2回平和を考える県民のつどい(於、アウガ)数百名(山本)  
核燃紙芝居をパネル展示
- 9月24日(土) 地学団体研究会青森支部会員にチラシ配布(根本)  
9月26日(月) 市内外崎在住の市民から講演会参加、ブックレット購入の申込みがメールで入る  
9月26日(月) チャリンコgogoキャラバン宣伝旗28本作成(ファルマの皆さん)  
9月27日(火) つがる弘前農協、農政連にチラシ700枚・ポスター36枚届ける(高松)  
9月27日(火) 弘大ランチで、21世紀教育「環境と共生」の授業内容・担当を決めた(資料1)  
9月28日(水) 弘前民主文学運営委員会で小出講演会に取り組むこととなった(三浦)  
9月28日(水) 自然保護団体の勉強会で一般会員より小出講演会が話題となる。(竹浪)  
9月29日(木) 新婦人弘前支部学習会(於、 、 名)(講師:仁平)  
9月30日(金) 小出講演会で販売する書籍3種、計110冊注文(須藤)
- 10月 1日(土) 津軽保健生協河西支部・藤代健生病院健康まつりで核燃紙芝居上演(穂積夏子氏・穂積順美氏)  
10月 2日(日) チャリンコgogoキャラバン・バーベQ・大坪杯争奪核燃ゲーム大会(キャラバン20名、バーベQ15名、ゲーム9名)(大坪、木村、奥瀬、中澤、坂本、安藤、安藤、高松、三浦、竹浪)
- 10月 3日(月) 会員佐藤克巳氏より意見・提言が届く(資料2)  
10月 4日(火) 共産党東青畑中地区委員長、県国公書記長にチラシ送付(三浦)  
10月 4日(火) 社会福祉法人「花」にポスター渡す。(高松)  
10月 4日(火) 弘前友の会・新婦人朗読小組から署名回収80筆(中澤)  
10月 5日(水) 会員佐藤克巳氏の意見に対して、会員石田悟氏より同感のメッセージ。  
10月 6日(木) 弘大21世紀授業開始。小出講演会チラシ100枚配布(40名)  
10月 6日(木) 会員貴田岡氏に小出講演会の参加者をまとめて下さるようチラシ・ポスター持参。(三浦)
- 10月 6日(木) 大館市「放射能を拡散させない市民の会」より、30名で小出講演を聴きに行きたい旨問い合わせが入る。  
10月 6日(木) 津軽みらい農協・農政連訪問。小出講演会参加要請(高松)。相馬村農協・農政連訪問(須藤)。ごしょつがる農協・農政連、つがるにしきた農協・農政連訪問(須藤、高松)  
10月 6日(木) 先日、三上雅通弁護士より、小出講演会に弁護士何人か連れて行く旨の話を得る。(高松)
- 10月 6日(木) 文京方面から弘大経由でバスを走らせる時刻表確定。(三浦)  
10月 6日(木) 赤旗日曜版津軽全域に折り込みチラシ入れる。(三浦)  
10月 7日(金) 会員小林喜美子氏、田舎館村役場にポスター掲示を頼んでくれるとのことポスター持参。(三浦)
- 10月 7日(金) 函館市民より参加する旨のメールが入る。(三浦)  
10月 9日(日) 中弘母親大会で鈴木先生講演「福島原発事故と核燃サイクル」チラシ80枚配布。74名参加。(坂本、中澤)
- 10月10日(日) 小坂町市民より参加したい旨の電話が入る。(竹浪)  
10月11日(月) 禅林街、海蔵寺署名回収26筆(中澤)  
10月12日(火) 立石先生より、3号機は核爆発だったとの見方をしている情報紹介メールが入る。  
10月13日(水) 青森県保険医協会に協力要請をしたところ、弘前の役員にポスター掲示、会員にチラシ配布を手配する旨の返答あり。さっそくポスター・チラシ送付(竹浪)
- 10月13日(水) 過去の市民講座参加者(会員外)にチラシと案内送付(三浦)  
10月14日(木) 仁平委員が参加しているメーリングリストに小出講演会案内アップ(仁平)  
10月14日(木) 弘大ランチ。21世紀教育の授業で「課題として出すレポートのとてもよい参考になるので」小出講演を聴くようにと話すことを確認。全額の教職員と保健学科の教職員全員5~600人にチラシ配布を確認。
- 10月14日(木) 弘前西協会石川牧師にポスターを托した。(高松)  
10月15日(土) 文京9条の会で、会員の穂積さんがチラシを配布した。  
10月17日(月) 新婦人しんぶん小出講演会チラシ800枚折り込み。(坂本)  
10月17日(月) コープあおもりが11月12日に予定していたイベント日程をずらし小出講演に参加できるよう配慮した。(三上)
- 10月17日(月) 2種署名回収(仁平)  
10月17日(月) 大館「放射能を拡散させない会」より講演会チラシが欲しいとの電話が入る。早速送付する。その後、メールで、「お互い長い戦いとなるかも知れませんが連携を取り合いなが

- ら脱原発をめざしていけるネットワーク作りをして行けたらと思います。」との連絡が入る。(竹浪)
- 10月18日(火) 今泉市会議員に小出講演会に参加して欲しい旨要請。参加したいとの返答あり。広めて下さるよう再度要請。(竹浪)
- 10月18日(火) 当日の備品等について小出先生より連絡あり。パワーポイントファイルが出来次第送るとのこと。(須藤)
- 10月18日(火) 弘大職組の執行委員会で宮永代表が署名の取り組みを要請。職組として位置づけ積極的に取り組むことが確認された。(宮永)
- 10月19日(水) 2011年度第6回運営委員会

#### <ブログ発行状況>

- 9/20 第三極(三浦)  
 9/22 風向き(三浦)  
 9/24 チェルノブイリ・ハート鑑賞記(三浦)  
 10/3 チャリンコキャラバン&核燃ゲーム大会終了(三浦)  
 10/6 イラクの子どもを救う会の原発DVD PR(三浦)  
 10/17 チェルノブイリハート 10月28日まで イオン柏... (三浦)  
 10/27 だまっちゃおられん facebook 誕生!(三浦)  
 10/31 もんじゅのじゅもん(三浦)  
 11/1 毎日飲みなさい(三浦)  
 11/13 小出裕章講演会に500人(三浦)  
 11/17 「あしたが消える〜どうして原発?」を見てきました(三浦)  
 11/21 手紙(竹浪)  
 11/22 津波禍のつひに生みたる原発忌(三浦)  
 11/29 六ヶ所再処理工場 ストレステスト終了待たずに試験運転再開予定(三浦)  
 11/30 北海道東北市民オンブズマンネットワーク 市民フォーラム in 盛岡「震災・エネルギー問題と地方自治」(三浦)  
 12/2 再処理からの撤退 2002年に既に合意(三浦)  
 12/4 小出裕章講演会 DVD ができました(三浦)

## ひきつづき署名運動にご協力ください

### ◇青森県原発と核燃料の再処理をやめて自然エネルギーへの転換を求める署名

県内反核燃5団体が連帯して行っている署名です。2012年2月集約。県知事に提出予定。

### ◇脱原発を実現し自然エネルギー中心の社会を求める全国署名

さようなら原発1000万人アクション実行委員会が主催する署名です。大江健三郎さんや鎌田慧さんら著名人九名が呼びかけています。2011年3月集約。国会に提出予定。

当会の到達 県知事宛て 1928筆 1000万人署名 2143筆(2011.11.16 現在)



ホームページ

だまっちゃおられん H Pはこちらから

<http://www.geocities.jp/damatty/index.html>

トップページに最近の活動の特集している他、マスコミに報道されている最新ニュースへのリンク、当会が過去に行ったアピールや申し入れ、公開質問等がすぐに探せる書庫も完備。皆様のアクセスをお待ちしています。

だまっちゃおられん facebook もできました

※ 2012年3月11日に、青森県内で原発・核燃をストップし、自然エネルギーへ転換しようと訴える団体・個人が集まった大集会が計画されています。詳細は、次号でお知らせします。会員の皆様のご協力をお願い致します。

発行：核燃・だまっちゃおられん津軽の会事務局

連絡先：080-5229-6076 (竹浪) takenami@coral.ocn.ne.jp